

6月4日(木)~7月2日(木) 満月セレクト

— 今回のセレクトター ご紹介 —

Music Selector : 濱口 祐自



濱口 祐自

デルタ・ブルースからサティ、エリントンに至るまで熊野フィーリングたっぷりに演奏する異能のギタリスト。80年代、勝浦漁港の古い民家を、自らの手で切り出した竹を使ってクラブに改造し、12年間経営と演奏を続けた。90年代にはヨーロッパ(ドイツ、スイス、オランダ、フランス)の各地でストリート演奏の旅を行い、98年ソロギター・アルバム「竹林パワ― Dream」を発表。2001年 東京青山での全国フィンガーピッキング・ギター・コンテストに於いて会場投票1位のオーディエンス賞を獲得。

2014年6月、久保田麻琴プロデュースによるメジャー・デビュー・アルバム「Yuji Hamaguchi from KatsuruUra」を日本コロムビアよりリリース。2枚目のアルバムを7月22日(水)に発売予定。

今回のセレクトCD

- 

1. Irma Thomas / Simply Grand (Rounder 612202)
2008年リリース、色々なミュージシャンのピアノ(ノラ・ジョーンズ、ランディ・ニューマン、ドクター・ジョン、ジョン・クリアリーやウィントン・マルサリスのお父さんのエリス・マルサリスなどなど)をフィーチャーし、歌っている企画のアルバムです。ほんの少しだけ、かすれぎみの声がバラードを歌った時に「キュン」ときます。またB.B.キングの1993年にリリースされた「ブルース・サミット」というアルバムの中で「We're Gonna Make It」という曲をデュエットしているのもオススメです。元気です。
- 

2. Roy Clark & Joe Pass / Play Hank Williams (Buster Ann Music 788751100124)
カントリー系ギター・バンジョーの名人ロイ・クラークとジャズ・ギターの巨匠ジョー・パスとの共演です。ジョー・パスが亡くなる前の年1993年のレコーディング。ジャンルを越えての素晴らしいギター・ミュージックです。ジョー・パスと長年一緒だったギタリスト、ジョン・ピサノも参加しているのも嬉しいですね。レコーディング風景をYouTubeで少し見ることができます。スウィングしまくってとてもカッコええです。
- 

3. Kenny Burrell / Midnight Blue (Blue Note TYCJ-81012)
まさしくタイトル通りのブルージーなアルバムです。スタンリー・タレンタインのサクソの音色とケニー・バレルのギターの音色がばっちりとはまっています。そしてキーボードレスという編成がとてもタイトに決まっていると思います。渋いです。ジャズブルース!
- 

4. Emmylou Harris / Quarter Moon In A Ten Cent Town (Warner Bros 3141-2)
1978年にリリースされたこのアルバムは、僕が初めて買ったエミルー・ハリスのアルバムです。この頃のエミルー・ハリスのすごく透き通った声が好きです。一曲目でその声に魅了されます。アルバム・ジャケットも好きで僕の父(2000年に亡くなりましたが)も絵を描いたのですが、このアルバム・ジャケットの絵を見るたび父の絵を思い出してしまいます。
- 

5. Miceal O'Rourke / John Field - The Complete Nocturnes (Chandos CHAN 8719-20)
アイルランドの作曲家ジョン・フィールド(1782年生まれ)のノクターンは18曲あります。時代は、ショパンより少し前までショパンのノクターンよりもシンプルでやさしいメロディーばかりの馴染みやすい曲想です。曲の途中でメロディーが爆発して大きな音になってくるところありません。ピアニストのM.オールアクも同じアイルランドの人で、このフィールドの作品をとても愛しているのが伝わってきます。クラシック音楽をあまり聴かない方にもオススメです。